

中華民國の音楽事情

Music in Taiwan R. O. C.

徳末悦子

昨年11月21日より24日まで台湾の「巧学社学術奨助基金会」の招聘による公開講座（22日台北・23日台中）のため訪台した。わずかの滞在期間であったが、音楽大学視察をはじめ今日の台湾における音楽教育に関して見聞した一端を紹介したい。

先ず全般的に見て日本同様、音楽は非常に盛んであり、台湾の経済成長と比例して急速に進歩発展を遂げている。ヤマハ・カワイ等、日本の大メーカーによる子供の音楽教室は全地域にあり、子供たちは熱心な母親（ご多分に漏れず、ここも教育ママ・パパの氾濫である）に付き添われて、夕方6時～9時頃まで、わが国と全く同じシステムで音楽の勉強に取り組んでいるのである。

次に教育制度について少し触れておく必要があると思う。この国では教育部（日本の文部省）が国・私立を問わず、種々の事項について統一・規制をしている。教育制度は、学前教育、国民教育、中等教育、高等教育の4段階に分かれる。

(I) 学前教育…幼稚園2年

(II) 国民教育…
・小学6年
・中学3年

義務教育

(III) 中等教育…高級中学3年

・高級職業学校（工・商・農・水産・家事・看護・助産）

(IV) 高等教育…専科学校(a)5年制…中学卒
(b)3年制…高級中卒
(c)2年制…職高卒

医は1年増

・独立学院…2学院以下

・大学（文・理・法・農・工・商・医などの学院（日本の学部）に分かれ、3

つ以上の学院をもって構成される。

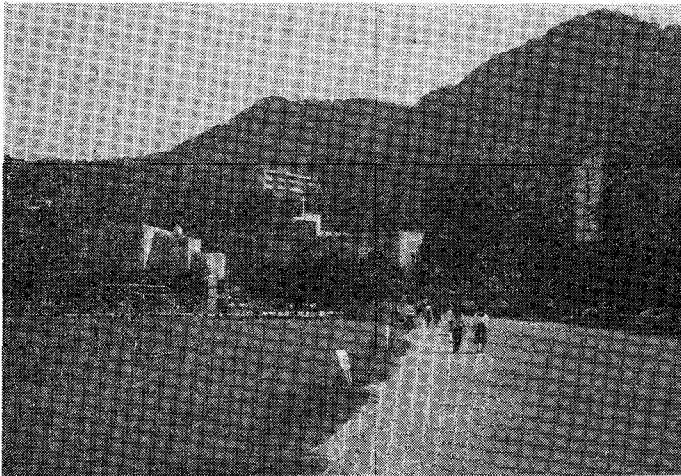
大学・独立学院は通常4年、医学院は6年、修士コース最低2年、ドクターコースは最低2年である。これらの他、大学、独立学院の設立する研究所があり、技術教育の一貫システムのためには、技術学院がある。（専科卒生）（資料…中華民國要覧参照）

音楽関係について述べると

中 華 民 国 の 音 楽 事 情



① 実践家専にて



② 東 呉 大 学

国立大学（4年制）… 2 大学

- 国立台湾師範大学音楽系…台北
- 国立芸術学院…1982年7月設立…台北

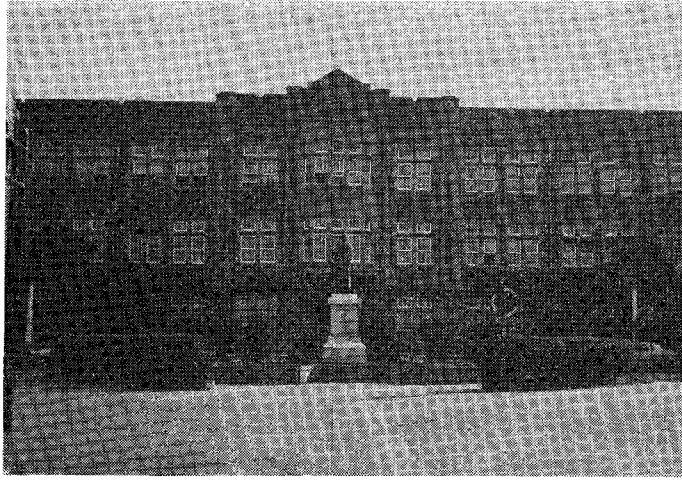
私立大学（4年制）… 3 大学

- 東呉大学音楽系
 - 中国文化大学音楽系
 - 東海大学音楽系
- 台北
台中

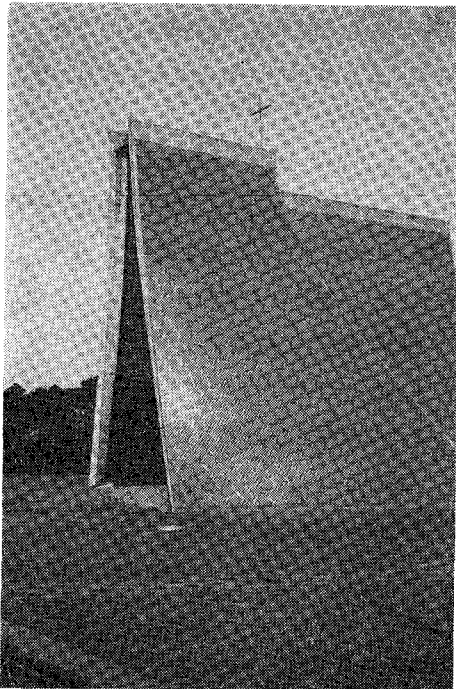
専科学校

- 国公立5年制専科学校… 3 校

① 国立台湾芸術専科学校



③ 師 範 大 学



④ 東海大学チャペル

②台湾省立師範専科学校

③台北市立師範専科学校

• 私立3年制専科学校…2校

①実践家政経済専科学校音楽科…台北及
び台南

なお台北・台中・台南・高雄の各地の小学校
・中学校・高級中学の一部に付設される「音
楽実験班」というのがある。音楽的才能を小
学生より可能な限り伸ばし、文化の向上およ
び教育面での貢献をなし得る人材養成のため
に、教育部が始めたものである。

• 小学校…台北（市立2・私立1）・台中
（市立1・私立1）・台南（市立1）・高雄
（市立1）

• 中学校…台北（市立1・私立1）・台中
（市立1）・台南（市立1）高雄（市立1）

• 高級中学…台北（国立1・私立1）・台中（私立1）

一例を挙げれば国立台湾師範大学音楽系と台北市立古亭小学校合併の音楽実験班。1クラス
30名位。試験は毎年7月中旬、科目は専攻（ピアノ・管・弦・国楽器類のいずれかより1つを
選ぶ）と副科で成績順に入学を許可する。内容はピアノ教師25名・弦16名・管8名・中国楽器
1名・合唱1名・その他、ソルフェージュ、音楽鑑賞、一般教育などに6名の教授陣を擁し大
学側の設備はレッスン個室17室、合奏ホール1室、ピアノ17台の他、管弦楽器9、小学校側で

中 華 民 国 の 音 楽 事 情

は練習室6室、演奏ホール1室、ピアノ7台、管弦楽器16と、大学、小学校両サイドの所有している設備、楽器を使用して授業が行われている。

授業時間割は、午前中に、主として一般学科、午後は、音楽関係の学科（専攻はじめ、副科、合唱、ソルフェージュ、音楽常識、音楽鑑賞など）が当てられている。指導に当たるのは師範大学の教授たちの他、成績優秀な学生であり、対象は4年生～6年生の児童たちである。

大学に話を戻し入試制度について触れてみると、4年制大学および3年制専科学校の場合は「聯合考試」という統一方式で行われ、成績順に希望校に振分けられる。このためにある程度、学校差、学部差が顕著となる。音楽系受験者たちも同じであり、国私立を問わず4日間かけて連合で行う。

①国立師範大学②私立東呉大学③私立中国文化大学④私立東海大学の順で前述のとおり、希望に従い成績順に入学を許可する。（師範大学は卒業後、奉職義務があるので実力を持っていても他の私大に行く者もある。）

受験生は全国から集り約500人。その中ピアノ科は半数を占め競争率は約17倍ということである。試験官は各大学より出るが、採点に関しては平均点より最高点・最低点共に20点以上差のある場合は除外する事になっている。

ピアノ科について述べると、視奏が必ず含まれており、多くが課題曲と自由曲を課している。卒業試験はいずれもかなり念入りなもので、最低3時代別の作品を30分から1時間演奏しなければならない。余りひどい時は、主任教授の判断で演奏を中止させ、追試あるいは場合により、さらに一期余分に留まらせる大学もあるが、実際にはこの様なケースは余りないようだ。

師範大、東呉大などの卒業生の中、優秀な者は全土を巡回演奏して披露する。（ただしスポンサー付）また、他の部門でも同じ現象であるが、卒業生はその多くが海外留学し全般に帰国者が少ないのは人材確保の上で、重大な問題となっている。レッスンは通常専攻生1人1時間。

1年次は大学側がレッスン関係の学生担当を決定、2年次以降は学生側が希望を出して選ぶ制度の所が多い。師範大では担当時数（受講人数）が5時間未満の場合は開講出来ない。さらにいづれの大学でも自国（中国）の伝統楽器および中国作曲家による作品を非常に大切にし、これらの演奏、勉強をほとんど例外なく義務づけている。

図書、楽譜は各大学とも余り豊富とは言えぬようで、これが大学以外の一般となると実に少なく、入手困難な状態である。教授以下各々の担当時数も大体教育部で決定しており、専任は規定時間外4時間以上の超過勤務や他大学の兼担は許されない。教授で役職にあるため多忙な場合は、担当時数は減じられ、一方、講師、助手クラスは事務の仕事も分担させられている。（ある大学でトイレを拝借したら事務の女の子が南京錠の鍵を持って現れたので、驚いた。後で会食の折、彼女も加わったが、声楽の優秀な卒業生で、現在、この大学の先生であると聞き2度びっくりした。）授業料も教育部である程度の制限をしているので私学といえども、むやみに高額に出来ないそうである。さて、訪問した3大学と1専科学校の主任（日本の学部長）

中 華 民 国 の 音 楽 事 情

その他の先生方から伺った事項と、本学と同じ私学である東呉大学のカリキニラム表をあわせて次に示すこととする。



⑤ 公 開 講 座 (台北)

学 校 名	師 範 大 学	東 呉 大 学	東 海 大 学	実 践 家 専
募集人員 (入試時)	50	30 (+5…編入の為用意)	30	20
学生総数(現在) (音楽系のみ)	242(中、80%ピアノ) 〔4クラス〕	141(声乐27、ピアノ59 弦25、管22、作曲8) 〔1クラス35〕	87(ピアノ、声乐、 管…クラリネット、フルート)	59(中、ピアノ34) 〔1クラス20〕 年により異なる。
教授陣(a)教授 (b)副教授(c)講師 他に助教(助手)	専任(a)…7名 (b)…13 (c)…16 他に兼任教授	専任…20 非常勤…30 (a)…10 (b)…10 (c)…12 他大学から8(兼任教授)	専任…9 非常勤…12 ～13	専任…7 非常勤…30
担当時数 (1週間)	(a)…8時間 (b)…9 (c)…10	(a)…10(役職ある場合 減じる) (b)…10 (c)…12 助教は事務を分担	平均9	(a)…11 (b)…13 (c)…14 (b)以下事務も分担。
個人研究費…名 目のみが多い。 (1ヶ月のサラ リーに含まれ ている)	30% 特別申請すれば 別に出る。	50% サラリーは (a)…¥20000位 (b)…¥16000～¥17000 〔註〕音楽系は文学部に 含まれ研究費少ない。	40%～50%	50% サラリーは (c)…¥15,000位 (普通大卒初任給 ¥12,000位)
設備 図書(楽譜含む) レコード、ピ アノなどの楽 器、練習室、 ホール	4000冊 中国系最多数 外国系一英・独が多い ・楽譜2600 ・ピアノ89・国楽器60	全学部(文・理・法商 ・音) ・中文71811、外文42850 (中、寄付…中文35000 外文…20950)	書籍・総譜など1500 音楽原文書400 ・ピアノG…7(中、 コンサート用2) U…25	・楽譜・図書・雑誌850 ・レコード8000 ・ピアノ G…7 U…34 ・電子オルガン5

中 華 民 国 の 音 楽 事 情

など	<ul style="list-style-type: none"> ・電子オルガン2 ・管弦楽用楽器 ・演奏ホール ・練習室28 ・目的別の教室など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ33 ・練習室18、 ・合併教室3 ・演奏ホール ・管弦楽用楽器など 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス 15万坪 (全学院) ・演奏ホールなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・弦6、管など ・ホール 806席 ・練習室 35 ・レッスン室 ・合奏室など 	
ピアノ科に関して	入試課題	<ul style="list-style-type: none"> ・Etude・Bach などの課題曲 ・自由曲 ・視奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・Etude・Bach の課題曲 ・自由曲 (3分位の速いもの) ・視奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題曲なし ・専攻10分程度の自由曲 (Sonateが多い) ・副科5分 	<ul style="list-style-type: none"> ・Hanon no.39(10%) ・Bach 3声 Inv. より1曲(20%) ・自由曲(60%) ・視奏(10%)
	卒試課題	3系統以上の異なる時代の作品。なるべく中国作曲家の作品を含むこと。	同左 45分以上。	同左又は5ヶ国の代表作による1時間のリサイタル。	同左 30分以上。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中、学年試験に必ず中国作曲家のものを演奏する。中国楽器最低1つ学ぶ。 ・1年次→2年次の時専攻合わなければ他学部へ回す。潜能をよく見きわめる。 ・卒業後は全員中学、高校の先生になる。 ・中学生の好みに応じクラシックギターのクラスを開講する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国楽器必修 ・副科はピアノでなくてもよい。 ・ピアノ科も副科必要 ・留年は3年間まで。パスしなければ退学。 ・学費は1期¥16000～¥18000(邦貨に換算) ・マスタークラスあり全員参加しなければならない。 ・公開レッスンなどで他から講師を招く時レッスンフィーは大学側・学生側をずつ負担。 ・先生の留学制度あり2年間位が限度。帰国後は2、3年当大学に勤務しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次で30分のコンサートを経験させる。 ・海外留学多く、現在までに50名位。留学先アメリカが多くインディアナ、ジュリアード、イーストマンイリノイ、ミンガン各大学など。 ・1年間必ず民族(中国)楽器勉強しなければならない。 ・専攻で先生を替えるチャンス2度あるが、実際には殆どない。 ・学費は1期¥10000 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の学生たちとミーティングした。短時間ではあったが、色々質問が出て、日本に留学希望の場合の質問もあった。私学の授業料の高額に非常におどろいていた。 	

私立東呉大学文学院音楽学系必修科目表

科 目	必修	学分(単位)	第一学年		第二学年		第三学年		第四学年		備 註
			上(前期)	下(後期)	上	下	上	下	上	下	
国 父 思 想	必修	4	2	2							(三民主義)
国 父	〃	8	4	4							(孫文)
二 年 国 文	〃	4			2	2					校 定 (検定…全学部)
英 文	〃	8	4	4							

中華民國の音楽事情

必修 (共通必修科目)	英語聽講實習(-)	"	2	1	1							校定	
	二年英文	"	4			2	2					"	
	英語聽講實習(=)	"	2			1	1					"	
	中国通史	"	4			2	2						
	中国現代史	"	2				2						
	人生哲学	"	2			2							
	体育	"	(8)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	学分另計 (單位別計算)	
軍訓	"	(4)	(1)	(1)	(1)	(1)					"		
必修 (音楽科必修)	国楽概論	"	2					1	1				
	合唱	"	4	1	1	1	1						
	主修	鋼琴(ピアノ)	"	24	3	3	3	3	3	3	3	3	応選主修科目外 任何一科為副修 詳見副修科目
		絃楽	"	24	3	3	3	3	3	3	3	3	
		管楽	"	24	3	3	3	3	3	3	3	3	
		声乐	"	24	3	3	3	3	3	3	3	3	
	理論作曲 (科目詳附表)	"	32	2	2	5	5	5	5	4	4		
	副修	声乐	"	8	2	2	2	2					} 任一科
		管楽	"	8	2	2	2	2					
		絃楽	"	8	2	2	2	2					
		理論作曲 (和声学(=))	"	8			2	2	2	2			
	鋼琴	"	8	2	2	2	2						
	視唱及聴写	"	6	1	1	1	1	1	1				
	音楽概論	"	4	2	2								
	音楽史	"	4					2	2				
	和声学(-)	"	4	2	2							主修理論作曲免修	
	対位法(-)	"	4			2	2					"	
曲式学	"	4					2	2			(楽式論)		
楽曲分析	"	4							2	2			
音楽心理学	"	4					2	2			系定 (検定…音楽科)		
指揮法	"	2							1	1	"		
選	音楽欣賞	選修	2	1	1							} (音楽鑑賞)	
	管絃楽合奏	"	8	1	1	1	1	1	1	1	1		
	国楽器	"	2			1	1						
	西洋楽器	"	2			1	1						

中 華 民 国 の 音 楽 事 情

修	室内楽	〃	2			1	1							
	和声学(一)	〃	4			2	2						主副修理論作曲 免修余為必選	
	音楽入門	〃	2					1	1					
	合唱	〃	4					1	1	1	1			
	配器法	〃	2					1	1				(オーケストレーション)	
	徳文 (ドイツ語)	〃	4					2	2				主修音楽必選余 可任選	
	義文 (イタリー語)	〃	4					2	2				〃	
	鋼琴教授法	〃	4	任選	24学分			2	2					主修鋼琴必選余 可任選
	鍵盤和声学	〃	4					2	2					〃
	詩詞曲大綱	〃	4					2	2					
	爵士音楽	〃	4					2	2					(ジャズ)
	芸術歌曲	〃	2								1	1		主修音楽必選余 可任選
	鋼琴伴奏	〃	2								1	1		主修鋼琴必選余 可任選
	歌劇研究	〃	2								1	1		
	中国音楽研究	〃	2								1	1		
	中国民謡研究	〃	4								2	2		
	音楽美学	〃	4								2	2		
音楽社会学	〃	2								2				
音響学	〃	2									2			

附表：理論作曲科目

科 目	必修	学分	第一学年		第二学年		第三学年		第四学年		備 註
			上	下	上	下	上	下	上	下	
和声学(一)	必修	8	2	2	2	2					
対位法(一)	〃	8			2	2	2	2			
配器法	〃	2					1	1			(オーケストレーション)
中国音楽研究	〃	2							1	1	
曲体与作曲	〃	12			1	1	2	2	3	3	(楽式と作曲)
合 計	〃	32	2	2	5	5	5	5	4	4	
	〃	114 (1)	22	22	18	18	11	11	6	6	(1) 主副修鋼琴 絃索管楽音楽。
	〃	(2)	19	19	18	18	13	13	7	7	(2) 主修理論作 曲
	〃	(3)	20	20	18	18	13	13	6	6	(3) 副修理論作 曲

中 華 民 国 の 音 楽 事 情

学 分 総 計	選修	24	1 2	1 2	3 2	3 2	5	5	3	3
	共計	138 (1)	23 24	23 24	21 20	21 20	16	16	9	9
	"	" (2)	20 21	20 21	21 20	21 20	18	18	10	10
	"	" (3)	21 22	21 22	21 20	21 20	18	18	9	9

() 内筆者註

最後に公開講座の模様を紹介する。昨年4月に出版した曲集に基づくレッスンを中心とした講座であるが、当地で公開講座のチャンスはほとんどなく、楽譜の輸入後、受講者たちへの楽譜の配布などが遅れたため、練習不足が目立った。そこで台北の場合、受講者はレスナーたちであったが、一部の人を除き充分レッスン出来る状態ではなく当惑した。しかし、何事にも大らかで、明るく気楽な国民性からステージの人も聴衆も、さしてこだわる風はなく和気藹々の雰囲気であった。

最後に当地のコンクールに入賞したという10才の男の子がドビュッシー「水の反映」とカバレフスキー「ソナタNo.3」の終楽章を弾いた。一応指は動き、音もまあ拾えているのだが（音のミスも勿論あった）何より途中、テンポを倍速く勘違いしていたり、32分音符の速いパッセージは団子運転、ppはf…という具合で余りにも問題がありすぎた。勿論10才でこれらのむずかしい読譜をなし遂げたのは評価されるべきかも知れないが、このようなでたらめな演奏が許され、まかり通っているということに情なく腹立たしい思いがしてきたのである。しかしながら才能は十分に備えていると思えるので日本のように、よい指導者に恵まれ、豊富な教材の選択が出来るなら、必ずすばらしく成長するであろうと残念でならない。（概して、一般に大曲を弾きたがる傾向があるように仄聞した。）

文化のメッカ台北でこの有様では翌日の台中はいかなる事になるかと案じられたが、ここでは案に相違して大部分が子供であり、同じ条件ながら音もよく、総体的に前日よりよかった。ことにその中の一人はセンスがよく、飲み込みも早く、ようやく救われた思いがしたのである。もっとも、中には4分音符と8分音符を全く同じ長さに弾き、音も間違いだらけという「つわもの」もいたが、アドバイスを与えているうちに終り頃には何とか目鼻がついて来た。

これらわずかの経験のみで全体を判断するのは大変危険であるが、ピアノ奏法の基本的な面での甘さを痛感する。

入試に初見の試験があり、卒試もかなり時間をかけた念入りなものであり、海外への留学組も多いのであるが…。結局、優秀な人たちは帰台することを好まず、大学の教授たちは、規制された担当時間内であちこち兼担せざるを得ない現状からなかなか優れた指導者につくのがむずかしいのではないかと想像される。せつかく、多くの子供たちが幼少の頃より熱心に音楽にとり組み教育部としても力を入れているのであるから、正しい基本を身につけ、軌道にのった

中 華 民 国 の 音 楽 事 情

学習により、着実にその成果が得られるよう切望する次第である。

話は変わるが、何しろ暑い国なので子供たちも夜12時頃まで、公園などで遊んでいる由、また、娯楽が余り無いので休日など、家族連れで郊外にドライブに出たり、涼みがてら公園を散策すると聞いた。

台中では、朝9時過ぎというのに主婦たちがグループでフォーク・ダンスを火樹の蔭で楽しみ、別の木蔭では老人たちが集って「カラオケ大会(?)」(日本語の歌で)に興じていた。この様に自然に親しみ、とけ込む庶民の姿、試験制度におけるある種の合理性、また、レッスンに関しても、見方を変えれば、メンツにこだわりすぎず、一つでも多くを得ようとする態度など私たちにも見習うべき点があるのを感じた。が、何よりも自国の作品や楽器を大切にし、大学の授業の中に組み入れて次の時代の人たちに伝えて行こうとする誇りと姿勢に深い感銘を受けたのである。

最後にこの訪台に当り、種々限りないご尽力と、ご協力を賜わった方々に心からの謝意を表したい。